

S.G. Report

2年SGコース

オーストラリア現地環境スタディー

- 日時： 平成29年8月1日（火）～8月8日（火）
- 参加者： 2年SGコース生徒 15名
職員（鶴山教頭・宮原）
- 訪問先： パース（オーストラリア）
- 目的： (1) 環境保護に力を入れているオーストラリアで、環境関連施設の視察、
高校・大学訪問・交流等を行う。
(2) 事前の準備や事後の振り返り等をとおして、自国の文化等について見
つめ直し、英語発信力を向上させる。
(3) 環境学習から得た知識や情報を利用し、それぞれの課題研究の更なる
深化を図る。

《研修日程》

月日（曜日）	時刻	行程	
8月1日（火）	6:00 10:00 15:25 18:45 23:55	貸切バスにて福岡空港へ シンガポール空港へ向け出発 シンガポール空港乗継 パース空港へ向け出発 パース国際空港着後 貸切バス移動、市内ホテルへ	
8月2日（水）	6:30 10:00 10:15 10:30 11:30 12:00	朝食 ホテル出発 キングスパーク到着 スクールコーディネーター兼 英語教師と対面 キングスパーク出発 カーティン大学到着 オリエンテーション	

<p>8月2日(水)</p>	<p>13:00 13:30 15:30 16:00 16:30</p>	<p>アフタヌーンティー(カーティン大学より提供)お弁当 オリエンテーション キャンパスツアー カーティン大学生と共に、5名1組に分かれ、課題をこなしながら、カーティン大学について学ぶ。大学生に興味のある場所を伝え、一緒に回り、将来について、海外の大学で学ぶという事について話す機会。どんなことを学んだかを発表する機会。 ホームステイをするにあたっての心構え ホストファミリーと対面 各ファミリーへ ホームステイ</p>	
<p>8月3日(木)</p>	<p>8:45 12:00 13:00 13:30 15:30 16:00 16:30</p>	<p>ホストファミリーによる送迎 カーティン大学集合 英語レッスン モーニングブレイク 英語レッスン お昼休憩 パース市内研修へ出発 パース市内研修 (大学生をリーダーに、グループワークでゴールを目指す) 研修終了 パース市内出発 カーティン大学到着 各ファミリー宅へ カーティン大学到着、各ファミリー宅へ</p>	
<p>8月4日(金)</p>	<p>8:45 12:15 16:30</p>	<p>ホストファミリーによる送迎 カーティン大学集合 英語レッスン モーニングブレイク 現地高校訪問(現地高校生である参加者と同年代の交流の機会、日本語を第二言語として設けている現地校を訪れ、ゴミ問題や環境問題等、日本と共通している点や異なる点を話し合い、様々な発見がある貴重な体験、日本が抱える問題点など予習をして臨んだ) カーティン大学到着</p>	

<p>8月5日(土)</p>	<p>08:45 09:45 11:00 13:00 14:00 16:25 17:45</p>	<p>ホストファミリーによる送迎 カーティン大学集合 ロットネスト島研修に向けて 出発 フリーマントル港～ ロットネスト島へ 再生可能エネルギーについて学ぶ。ロットネスト島では、再生可能エネルギーの利用率を上げ、島での電気を賄うことに力を入れている。 昼食 自由時間(サイクリングで散策) オーストラリアで最も美しいとされるビーチの1つを散策) ロットネスト島出発～ フリーマントルへ カーティン大学到着 各ファミリー宅へ</p>	 
<p>8月6日(日)</p>	<p>終日</p>	<p>ホストファミリーとの交流</p>	
<p>8月7日(月)</p>	<p>08:45 12:00 13:00 14:00 14:30 17:30 22:35</p>	<p>ホストファミリーによる送迎 カーティン大学集合 プレゼンテーション準備 モーニングブレイク プレゼンテーション準備・ コース評価セッション 昼食 プレゼンテーション 英語教師、大学生とのお別れ 現地校出発 空路 シンガポールへ シンガポール乗り継ぎ</p>	 
<p>8月8日(火)</p>	<p>01:20 08:35 11:30</p>	<p>福岡空港へ向け出発 福岡空港到着 解散</p>	

生徒感想（抜粋）



僕は、この1週間でのオーストラリア研修でたくさんの事が分かり、感じましたが、それらは大きく分けて3つに分けられると思います。

1つ目は、やはりツールとしての英語が存在していることを直接実感出来たことです。初日のシンガポールのチャンギ国際空港に始まり、パースでホストファミリーと触れあいながらカーティン大学に通う中で色々な英語を使って来ましたが、完璧な英語を話す必要は全くありませんでした。もちろん、仕事などの間違いの許されない範囲ではある程度の英語力は必要

だと思えますが、少なくともこの1週間の中では、自分の言いたいことは知っている表現に変えて伝えることが出来たし、周りの外国の方の話を聞いていても、口語として砕けた話し方をしている場合が多く、ゆっくり話してもらえば分かることが多かったように思います。現地の英語の先生もおっしゃっていた通り、自分で考えて、積極的に話すことこそが大事なのだと実感しました。それでも、知らない単語、分からない表現も多かったので、次に外国に行く時にもっと多くの人とおもしろい話が出来よう、もっとハイレベルな英語をマスターしたいと思いました。

2つ目は、日本との文化の違いです。これは、ホストファミリーとの生活や、現地の高校に訪問したときにより強く感じました。ホストファミリーとの生活では、特に食生活での違いを実感しました。夕食は父親を待ってから食べ始めるのに、朝御飯は自分で勝手に作って皆バラバラに食べることに、当然ながらナイフとフォーク、スプーンだけを使って食事することなどです。日本との共通点もいくつかありますが、特に朝御飯の件については一番驚きました。特に自由行動の日の朝御飯は、九時過ぎになってもホストファミリーの誰も食べ出さず、僕と一緒に食べようと話しかけてようやく動き出したくらいでした。朝御飯も皆で食べるのが当たり前だと思っていた僕にとっては、とても衝撃的でした。また、現地の高校に行くと高校生と触れ合う時は、彼らが平然とスマホを取りだし、好きな写真をたくさん見せてくれ、学校で携帯が普通に使えることに驚きました。当然マナーとして授業中は基本電源オフにはしておくのかもしれませんが、電子機器が日本よりも生活に溶け込んでいるなあと実感しました。僕のホストファミリーでも、6歳の女の子でさえ自分の携帯を持っており、自由に使っている状態でした。個人的には、電子機器との生活はある程度成長してからの方が良いと思うのですが、高校での取り組みは、とてもいいことだと思いました。これらの食生活、電子機器との生活はどちらも日本では考えられないものでした。

3つ目は、今回のプレゼンのテーマでもあった、持続可能な、住みやすい町作りがなされていることです。向こうでもプレゼンしましたが、熊本に帰って、より一層強く感じます。主に2つです。1つは、熊本よりも緑地が多いこと、家があまり密集していないことです。

オーストラリアは日本に比べてとても広い国であるため、この問題は簡単には語れないものだと思いますが、確かにパースは住みよいところだったと感じています。熊本にはもっと緑地が必要だと思いました。もう1つは、交通に関してです。向こうでもプレゼンしましたが、パースでは多くのバスが無料で利用できました。熊本では考えられないことです。もしこの熊本でもバスが無料だったら、どんなにいいだろうかなどとってしまいます。

以上の3点以外にも、本当に多くのことを見聞きし、学ぶことが出来ました。パースは住みよいところでしたが、この長所を熊本に還元出来なければ、この研修の意味は半分以上なくなってしまうと思います。楽しかった思い出はしっかり記憶に留め、熊本を住みよいところにするために、これからのSGの活動を含め、自分にできることを頑張ろうと思いました。

今回のオーストラリアへのホームステイを通して学ぶことができたことは主に、「英語の重要性」と「現在の環境問題の深刻さ」です。

まず一つ目の「英語の重要性」についてです。私がオーストラリアへ行き、英語を思ったように話し、聞くことが出来ずに本当に困ったのはホームステイの時です。まだホームステイ初日の頃、あちらもどのスピードで話せば良いかもわからず



会話と会話の間に気まずい時間が多くありました。しかし、私が理解できないことは言い換えてくれたり、翻訳アプリなどで説明してくれたりなどと親切にしてくださいました。カーティン大学では、先生方がゆっくりと話してくださったためにある程度理解することが出来ました。変化に気づき始めたのは3日目位からです。ホストファミリーが話すスピードを調節してくれていたのかもしれませんが、聞き返さずに1回であちらの言っていることを理解することが出来るようになったのです。このことに気づいた時はものすごく感動しました。その後も、質問などをされて無意識に英語でYes, Noと返事ができるようになっていました。ホストファミリーと日常会話をする中で、英語の話し方にもコツを掴めたように思います。それは、途切れ途切れの英語ではなく、ある程度波のある英語を話すためにはどのように頭を使いながら英語を話すかということです。それをハッキリと実践出来たのはカーティン大学で「前日はホストファミリーとどのような会話をしたかについてパートナーを見つけて話す」という活動の時です。その時はパートナーへではないのですが、先生に対して昨日の出来事を話すと相槌をうちながら聞いてくれ、質問もしてくださいました。この感覚は今でも忘れられません。そして最終日には初日よりリラックスして相手の英語を聞いていたと思います。もう、現在もそうですが、グローバル社会となり英語が必須という社会になってきています。そのような社会の中で生きていくためには今回の経験は私たちにとって最も重要であるのではないかと思います。専門英語でなく、日常英語だとしても、必ず将来に役に立つ何かを今回の海外研修で学ぶ事が出来たと私は確信しています。

次に「現在の環境問題の深刻さ」についてです。ここでは、「水の問題」と「地球温暖化」について主に学ぶことが出来ました。オーストラリアでは現在国土のほとんどが、砂漠に覆われており雨がめったに降りません。ホームステイする以前から、「オーストラリアではバスタブはなく、シャワーは5分で終わらせないといけない」と聞いていましたが、あまり信じてはいませんでした。しかし、実際に行き、確認してみると、本当に噂通りでした。ですからもちろん、ホストファミリーは私が滞在した期間中1度もシャワーを浴びませんでした。日本では毎日風呂に入る習慣がある日本人にとっては最も違和感のあることだろうと思います。それだけでなく、大学に行くとボトルに給水できる地点がいくつも設けてありました。日本では冷水機で口を近づけてそのまま飲む私ですので、なるほどと思い、節水には持っていきたい策だと思いました。また、ロットネスト島に行き、島の現状について学ぶことが出来ました。ロットネスト島では、作られる電気のほとんどが、自然エネルギー、例えば風力、太陽光などに由来していることを知りました。私が驚いたことは、風力発電についてです。朝私たちが起きて夜寝るまで作られる電気のほとんどが私たちの生活に使われます。一方、夜になり皆が寝ると一変します。私たちの生活に使われていた電気が、夜になると海水の淡水化に使われるのです。私もこれには驚きました。作られた電気は貯めておくことが困難ですから、この方法だと無駄なく、効率よく、環境に配慮しながら発電できるのです。さらに日本ではゴミの分別の仕方は「可燃か非可燃か」です。しかし、パースでは、「リサイクル可かリサイクル不可か」で分別しているのです。日本の方法では、リサイクル可でも、燃やせる物ならばただのゴミになってしまいます。しかし、パースでは使えるものは何でも再生利用するのです。日本も地球温暖化防止と掲げているので、是非ともこの策を取り入れるべきだと思いました。

最後に、今回、勉強だけではなく、パースの人々のフレンドリーさなども学ぶことが出来ました。パースは世界で最も住みやすい都市だと言われているようですが、その主な理由は町並みや環境だけではないと思います。私の思う主な理由とは人々の親密さにあると思います。見知らぬ人でも関係なくフレンドリーに話しかけ、挨拶をする。こんな素晴らしいことを当たり前に行えるような人になりたいとも強く感じた体験でした。



私はこの研修を終えて、環境について、そして外国について今まで以上に興味をもちました。この研修に参加した動機は2つあります。

まず1つは外国での環境問題に触れ、現状を知ることで、自分の関心を深め、それと同時に自分の論文研究に役立てるためです。2つ目は、積極的に発言し、ホストファミリーや先生、みんなとの意思疎通を図ることで、「話す英語」を身につけるためです。目的は2つ

とも果たすことができたと感じています。1日間の移動を経た後、2日目はキングスパークで、自然の豊かさや重要性を改めて実感しました。日本の公園とは違う敷地の広さや建造物の多さには驚きました。なぜキングスパークが人々に愛されているのかがよく分かりました。また、カーティン大学のキャンパスツアーに参加した際、リユースを促す冷水機や大学内を自由に移動できる無料自転車などを見て、様々な点で環境に配慮されていると感じました。生徒のリラックスを図る、無料のハンモックホテルやビーズクッションも印象に残っています。3日目はオーストラリアの環境問題・自分の論文資料のためのインタビューを行い、現地の高校生の意見を聞くことができました。彼らは、自身の街の特徴を理解し、工夫しながら生活していて、刺激を受けました。4日目はパース市内をクイズに答えながら見学して回りました。歴史的建物と現代的建物が混在しており、その景観から、古くからの知識や伝統を大事にしつつ、最新のデザインや技術を取り入れるという、絶妙なバランスを保つ街であることが分かりました。5日目には観光名所であるロットネスト島を訪れました。そこでは、野生動物や島独自の植物の保護、風力発電や太陽光発電による自己発電など環境に特化した取り組みが行われていました。また、自己発電によって作られた余分な電気を純水にするための電気として使うという無駄のないシステムは、素晴らしいなと思いました。日本にも取り入れるべきであると思ったのは、リサイクルできるものとリサイクルできないものの、たった2種類に分別するためのゴミ箱をいたる所に設置することです。日本は細かく分別するのが鉄則ですが、きれいに分別されていることは少ないと思います。しかし、この分別法はゴミを2種類に分ければ済むので、分別の徹底を図ることができます。このように外国の環境問題や取り組み、現状に触れ、知ることができたおかげで、自分の関心が深まったのはもちろん、視野が広がり、物事を側面的に様々な点から観ることができるようになったのではないかと考えています。最終日のプレゼンテーションではパースが住みやすい街である理由について自分なりの意見を堂々と発表することができました。

2つ目の目的である「話す英語」について、一番に思うのは「人は英語しか使えない環境で生活すれば自然と慣れて、英語は身についていく」ということです。私は、小さい頃からホームステイをするのに憧れていました。今回は、両親と小学生の女の子1人がいる家庭に受け入れていただきました。最初はうまく聞き取れず理解できなかった英語も徐々に聞き取れる回数が増えていき、最後にはホストファミリーが言ったほとんどのことは理解で



きるようになりました。私が苦労したのは自分が話す立場になった時です。前までは積極的に話すことがあまり得意ではなく、どうしてもきれいな文法で話そうという癖がぬけませんでした。しかしホームステイにおいて、大事なことは「自分の知っている知識や単語で一生懸命伝えること」であると気づき、積極的に会話をして、楽しむことができました。また、ホストシスターと趣味が共通

していたため、一緒に歌ったり踊ったりもしました。時々、ホストファミリーから日本のことについて色々尋ねられたのですが、自分の知識不足で全ての質問に答えられなかったことは後悔しています。自国の文化や伝統を知っておくことも大切なことなのだと実感しました。1日フリーの日には日曜市場や公園、レストランに連れて行ってもらって、本当に充実した時間を過ごすことができました。たくさん遊んでたくさん会話しした1週間でした。ホストファミリーと過ごした時間は忘れられません。ホームステイを通して、自分の英語力が確実に向上したと思っています。そして自分の意見をはっきりと伝えることができるようになりました。将来、外国で暮らしながら勉強したいと思える、そんな研修でした。

この研修で学んだことをより多くの人に発信していきたいです。また、この研修に参加させてくれた両親、引率して下さった先生方、優しく接してくれたホストファミリー、この研修に関わって下さった全ての方々への感謝を忘れず、学び得たものを生かして、生活していきたいと思います。



今回の、8日間にわたるオーストラリアでの研修で、僕は多くの出会い、発見、驚きを通して、これまでにないような学びを得ることができました。

まず、現地についてから、最初の活動となった、キングスパークについてです。キングスパークは400ヘクタールもの敷地面積を持ち、一帯が木々や芝生で覆われていて、広大な緑地を人々に提供しています。パースの市街地に隣接しており、スワン川も横を流れ、それらの美しい景色を一望することもでき、パースで人気の高い観光スポットの1つとなっていることを知ることができました。このような広大な敷地を持つ公園が市街地の近くにあることで、人々の癒しにもなり、環境保全の観点から見ても、多くの緑地を保持することで、地球温暖化を少しでも食い止めていると思います。日本にも広大な敷地を持ち、市街地に面する公園が多くありますが、400ヘクタールもの面積を有する公園は日本では見られないことを考えると、このキングスパークはパースを住みやすい街にしている大きな要因だと考えました。

次に、カーティン大学のキャンパスツアーやダンクレイグ高校の訪問で学んだことです。大学でも、高校でも、生徒や学生と話す機会が多くありました。どの人たちもとてもフレンドリーで、恥ずかしがる様子もなく、僕たちとたくさん楽しく話をしてくれました。また、生徒や学生は、自分たちの環境について多くのことを知っていて、自分が環境問題を解決する助けになるために身の回りの取り組みを様々にしていて、自分の国の自然環境にとっても関心を持っているように思いました。もし、自分が、環境をよりよくするために個人でどのようなことをしているのかということを探ねられても、すぐに答えを出すことはおそろくできないだろうと思います。なので、これからは、自分の行動は環境問題とどのように結び

ついているのかということをよく考えて、自分が自然環境の保護にどれだけ貢献し、どれだけ自然を壊してしまっているのかということ堂々と言えるようになるのになりたいと思いました。

次に、パースの市街地の研修についてです。オーストラリアは移民の国でもあるので、様々な国々から人々が移り住んできたということは、パース市内を少し歩くだけでも、すぐにわかりまし



た。そして、その影響もあり、通りに数十か所あるレストランは、ファストフード店ばかりではなく、韓国料理店や中華料理店、フィリピン料理店や日本料理店などなど、1つの通りを歩くだけでも、異なる国々の料理を提供する店を見ることができ、不思議な感覚がしました。また、ロンドンコートでは、オーストラリアがイギリスの植民地であったことに大きな影響を受けていると考えました。また、左側通行であるオーストラリアの車道もイギリスの影響を受けている証拠の1つであると思いました。これらのことから、やはり、昔植民地とされていた国々は、その国を植民地としていた国の影響を大きく受け、国が発展した後も、その文化は根強く残っていくということがわかりました。ロットネスト島では、再生可能エネルギーや、ごみの処理の仕方など、環境保全についての学習をしました。島に入っても驚いたことは、バスや作業車などではない乗用車が島内に1台もないということです。島内の移動は全て、無料で乗車できるバスや、無料で貸し出しできる自転車の利用で済ませることができるのです。自転車の利用はもちろん環境によく、バスを利用することも、それぞれが自分の車を利用して移動するよりも二酸化炭素の排出を抑えることができるのです。島についてからしばらくしてから、島の中を案内してくれるガイドの方と一緒に、島の環境の保全について学びました。

ロットネスト島では、島の植物を取り戻すために、植林を盛んに行っていました。また、ごみのリサイクルにも熱心に取り組んでおり、プラスチックのごみを減らすことで、自然を守ろうとしていました。風力発電と、太陽光発電の2種類の再生可能エネルギーを利用し、火力発電による化石燃料の枯渇を食い止めようとしていました。また、海水を淡水に変換する淡水化プラントも整備されていて、水不足の克服に挑んでいました。たった1つの島で、環境の保全のために、こんなにも多くの取り組みを行っていることに驚きました。また、島の景観は非常に美しく、自然の雄大さに圧倒をされました。景観の保護と環境の保全を同時にこなしている理由は、オーストラリア政府の援助や、観光のための島であることなのだろうなと思います。

今回の研修で、僕が最も苦戦したのは、英語を使った会話でした。自分の英語の語彙力が少ないことや、リスニングに耳がなかなか慣れなかったことが、その理由です。でも、それでも諦めずに、英語を話そうとする姿勢を見せて、相手に伝えようとする気持ちをしっかり持って話せば、相手も聞く姿勢をしっかりと取ってくれました。異国の地で慣れない英語を



使ってコミュニケーションをとることは、僕に諦めない心を教えてくれたと思います。今回の研修で、多くの知識を得ることができ、自分の心も育ったように感じます。これからの学習や生活に研修で得た多くの学びを役立てていきたいです。

私はこの研修を経て、本当に多くの経験をしました。その中で特に学んできたことは3つあります。

1つ目は、コミュニケーションを取ることの難しさです。日本では英語を話す機会はほとんど無いので、店の名前や新聞、道路標識などすべてが英語表記という環境で過ごすことは本当に難しかったし、少し心細かったです。それでも、ホストファミリーが温かく私と向き合ってくださったので少しずつ英語に慣れていくことが出来ました。彼らは私が理解できるまでジェスチャーを交えて話してくれたり、簡単な英語に言い換えて表現してくれたりして、親身になって話してくれました。なので、4日目くらいには環境問題について話し合い、それぞれの国が抱える問題について議論もすることができました。自分の思っていることや考えを言葉に表すことが出来ないことが、こんなにももどかしく、無力だということを実感し、知ることが出来ました。まだまだ、英語の勉強が足りないと身に染みて分かりました。

2つ目は、オーストラリアの環境の良さです。オーストラリアの自然は、飛行機の窓から見える緑の多さで一目瞭然でした。国土が広いということも関係すると思いますが、パースの街にも、住宅地にも、さらには大学内にもかなりの自然が存在し、それだけでもリラックスすることが出来ました。その上、街中には至る所にベンチや休憩所があり、大学内には多くのハンモックホテルやカフェなどゆったりと過ごすことができる空間がありました。日本には緑のスペースや休憩する場所があまり無く、家以外でほとんど休むことが出来ないため高齢化が進む日本にも導入してほしいなと思いました。また、日本にはない巨大なアートや路地裏のペイント、遊び心溢れる銅像やハリーポッターに出てきそうなオシャレな道などを散策することができ、想像力がかき立てられて良い刺激を受けました。日本の建物は殺風景で機会的なのでもっと遊んでもいいのではないかなと思いました。

この自然環境を維持するために、パースは市民と政府が一丸となってゴミのリサイクルに取り組んでいた事に驚きました。私がこの研修に来ていちばん驚いたことは設置されているゴミ箱の量です。日本には、コンビニの前や飲食店の中にしか無いので、ポイ捨てなどが多くなり、街が汚れていきます。しかし、パースでは常にゴミ箱がある環境にあるので日本よりも圧倒的に街が綺麗でした。またさらに驚くことに、そのゴミ箱はリサイクルされたペットボトルなどから作られているということです。これを聞いた時、「環境にやさしいというのはこういう活動のことをいうのだな！」と感動しました。私はこの研修を経なかったら、リサイクルがどういう方法で行われ、どんな形で環境保全に貢献しているのか分からな

いまま生きていたと思います。五日目に行ったロットネスト島でもゴミのリサイクルに、そこに住む人たちや観光客が協力し、固有種であるクオッカを守り、再生可能エネルギーで電力を賄ったりしていて、その土地に残された伝統や文化を必死に守ろうとする熱意が伝わってきて島全体が神秘的な雰囲気です。とても印象に残っています。

3つ目は、多文化社会のなかで過ごすということです。日本に住む人のほとんどは日本語を話す日本人なので、ほぼ単一文化といえます。信仰する宗教は違えど、パースのように白人や黒人、日系の人からアフリカ系の人など本当に世界中の人々が移民しているような環境は日本にはなかなかありません。私がホストファミリーと一緒にショッピングモールに行った時、昼食を食べようとフードコートに行きました。しかし、そこに並んでいた店は、日本の寿司や中華料理、韓国料理に、インド料理、オーストラリアの料理やイギリス料理など世界各国のお店があり、仰天しました。また、日本には少ない、グルテンフリー商品も多かったです。多文化社会であるからこそ知ることが出来る、宗教間の理解や人種の壁の撤廃、人権の尊重について実際に垣間見ることができました。

私はこの研修を通して、日本でどんなに狭い視野で生き、環境を壊し、資源を無駄にしているかを痛感しました。これから、日本は原子力発電所や気温上昇など数多くの問題に直面すると思いますが、その時は国民全体が協力してその対策に取り組んで行くべきだと思います。この一週間は、私にとってかけがえのない経験となりました。今後もホストファミリーと交流し合い、英語の習慣を身につけていきたいと思っています。



今回の研修で貴重な経験ができ、自分の進路を改めて考える良い機会となりました。私にとって初めての海外だったので、初めは不安と緊張がとても大きかったです。しかし、日本に帰ってきてから達成感を感じることができた良い研修となりました。

毎日午前中に行われた英語の授業では、英文法や単語の基礎を徹底しなければならないと感じました。日常会話で使う文法のほとんどは中学校のうちに習ってしまうものばかりなので、聞き取ることは出来たのですが、自分の伝えたいことが言い出せないという場面が多々ありました。ホストファミリーとの会話も初めは尋ねられた質問に yes か no で答えていくだけで、コミュニケーションがずっと一方通行になっていました。しかし、4日目くらいから1つの質問に対して文で答えることが出来るようになり、最後には自分からその日起こった出来事やその日の予定を文章で答えることができるようになりました。自分の英語力でも積極的に話せば相手に伝わることを、しかしまだ英語の基礎の徹底が重要であることを実際に感じる事が出来て本当に良かったです。

また、今回の研修では環境について考える視野が広がりました。オーストラリアには日本では見ることの出来ないような自然がたくさんあり、気候も全く異なっていて驚きました。土地が広いのか1つ1つの家がとても大きかったです。そしてパースの建物は1階建ての建物が多かったです。なぜ2階建ての建物が少ないのか、気候と関係しているのか、結局研修の中ではっきりさせることが出来ませんでした。これは私の中で少し悔いの残っている部分です。しかし、パースだけでなく他の国の気候や文化についてもっと知って、それがいかに建物や服装に関係しているのかなど調べてみたいと思いました。また、オーストラリアではゴミが燃えるか燃えないかではなくリサイクルできるかできないかで分別されていることを知り驚きました。道のところどころに灰皿が設置されているにも関わらず、喫煙者を見ることはありませんでした。日本も喫煙に対してもっと対策を行っていくべきだと思います。そして、通りにゴミが落ちているところはほとんど見かけないとても環境にやさしい国でした。しかし、研修の最終日、オーストラリアの人々は日本人のようにしっかりとゴミを分別して捨てることが少ないと聞きました。日本はゴミ袋の中に分別を間違ったゴミが入っていると回収してくれませんが、オーストラリアではそのようなことは気にしないそうです。やはりどの国も国民の意識が最も大切なのだと感じました。また降水量の少ないオーストラリアでは水が貴重となり、ホストファミリーのシャワーの短さにはとても驚きました。現地の高校生と交流したときに、環境への配慮で意識していることを尋ねた時に「シャワーは4分で終わらせる」ということを聞きました。毎日のように湯船に入っている日本との差には驚かされました。ロットネスト島では風の強い気候を活かして風力発電で多くの電力を得て、貯めることの出来ない電力を水に変換してタンクに貯めておくなど、様々な工夫が行われていました。グローバル化と言われているからには私達日本人もしっかり節水や節電を行っていくべきだと思います。

1週間をホストファミリーと一緒に過ごしてオーストラリアと日本の衣食住の違いを体験することができました。1番違い感じたのは食事です。初めはオーストラリアの食事に全く慣れることができませんでした。私のホストファミリーの食事は日本の食事に比べると甘いものが多く、野菜が少なく感じました。そのため初めはお弁当をすべて食べるのが精一杯でした。しかし、日を重ねるにつれオーストラリアの食事にも慣れました。お弁当に毎日入っていたオーストラリア発祥のデザートであるラミントンは私の好物となりました。また、ホストファミリーの家はリビングがとても広く寒いにもかかわらず、暖房器具をつけることは少なかったです。これはオーストラリア人の体温が私たちより高いのか、それとも節電を心がけているからなのか、ホストファミリーを尋ねてみればよかったと後悔しています。私はまだ自分の進路をはっきりと決めていません。そしてこの研修は自分の物事の捉え方や考え方を変えた貴重な



経験となりました。この研修で自分の進路をはっきりさせようというのがひとつの目標でしたが、逆にさらに迷うことになりました。それだけ自分の視野が広がったのだと思います。そして、広がった視野から自分の将来を決めていくのは難しいだろうなとも思います。しかし、この研修で学んだことは将来どの道を選んでも活かすことができるのではないかと思います。今回学んだことや新しく知ったこと感じたことを考えながら、大学や職業について調べていきたいです。そして、悔いの残らない、ホストファミリーにも堂々と報告できるような進路決定を行いたいです。ホストファミリーに聞き損ねたこと、もっとこうしておくべきだったなど後悔することはいくつかありますが、それ以上に学びの多い研修になったと思います。ホストファミリーや大学の方々とはもっと積極的に話さなければならなかったと思います。日本人の謙虚な姿勢は外国では消極的だと捉えられるのだと感じました。今回学んだことはこれからの高校生活や進路決定に活かして行きます。そして、次は自分の力で外国に行って、衣食住や文化の違いをもっと知りたいと思いました。物事の捉え方や自分の考え方を変えたこの研修に協力して下さった多くの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。